

学校 教育 目標	原中学校は、「ゆたかな心」を育み、社会との関わりを大切にします ○自他の違いを認め、互いに尊重し、共に高め合う場を大切にします。(徳、体) ○将来を見ずえて、学習への興味と関心を広げる体験的活動の充実を図ります。(知、公) ○学習の過程を重視しつつ、学習の基礎・基本を定着させ、確かな学力の充実を図ります。(知) ○伝統や文化を尊重し、社会のために役立つことを進んで行動できる場を大切にします。(公、開) ○様々な人々とのふれあいを通して、社会への関心を高めます。(開、知) ○公共心を大切にし、法やルールを守る規範意識や礼儀を大切にする態度、自分の行動に責任を持つ姿勢を大切にします。(徳、公)						
	学校 概要	創立 74 周年	学校長 西田 寛	副校長 馬越 秀夫	2 学期制	一般学級: 22	個別支援学級: 5
児童生徒数:		人	主な関係校: 原小学校・三ツ境小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	原 中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
	①各教科で学んだ既存の知識・技能と関連付けたり組み合わせをし、問題発見・解決能力・情報活用能力を育てる。②持続可能な社会を維持するために、様々な学習や生活の場面で活用できる「学びに向かう力・人間性等」を育てる。	原中学校 原小学校 三ツ境小学校

中期 取組 目標	○生徒一人ひとりが、安心して生活でき、相互に認め合い、自分のよさを発揮できる学校づくりを目指します。 ・目標を明確にした「わかる授業」の実践と自主学習の習慣化を図り、生徒が学力向上を実感できるようにします。 ・課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育てるために、授業や学校行事等において、主体的・対話的な活動の質を高めています。 ・生徒の抱える悩みや心的ストレス等を適確に把握し、問題解決に向けて適切な助言ができるよう、教育相談の質を高めています。 ・保護者や地域との連携を大切にし、生徒が地域の一員であることを自覚し、地域に貢献できるような取組をすすめています。 ・相互に高め合う教職員集団を構築し、効率良く有機的に機能する学校運営組織が確立されています。
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①組織的・計画的に教科研修会を行い、共通目標を設定し、他教科の授業を見ることで、教科横断的な取り組みを行う。②基礎・基本の確実な習得から、語彙力を高め、生徒の主体的な学習活動の充実につなげる。③GIGAスクールの有効的な活用を考えるため、教職員の研修会を充実させる。
豊かな心	①挨拶などの礼儀は生徒間同士で伝統を受け継ぐ体制ができてきており、多くの生徒に浸透している。生徒自らが規範意識を理解し高め、教員の指導・指示がなくても取り組めるような気運を作っていく。②③道徳で生徒自らが規範意識を理解し高め、日常の学校生活での成果と課題を確認し、改善につなげていく。
健やかな体	①養護教諭、保健体育科教員を中心に健康診断、体力テスト等の結果を効果的に活用し、主体的に健康管理していく姿勢を養う。②関係機関と連携し、各学年ごとにテーマを決めて実施し、健康教育の充実を図る。③ハマ弁の給食化に伴い、食育の推進の充実を図る。
教育課程 学習方法	①教科の授業時数を確保しながら、生徒会活動や教育相談、部活動の時間を保障できるよう、カリ・マネに取り組む。②教科横断的な授業の在り方についての研究に取り組む。③各教科工夫をしながら、主体的・対話的な学習活動を効果的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を育てる単元づくりに取り組む。
児童生徒指導	①学校全体での情報の共有化、組織的な指導をさらに浸透させる。②基本的生活習慣の定着と規範意識の向上を図るため、生徒が自らの言動を振り返り、個々の間違いを理解し合える態度を育成する。③教職員のカウンセリングマインドのスキルアップをはかり生徒の悩みや心的ストレスを感じとり、共感的な指導につなげられるよう、研修を充実させる。
地域連携	①学校HP、授業公開、学校だより等で、生徒の状況、学校の今日的課題等を適時情報発信し、双方での情報交換の場を形成し、学校教育に対する理解を得ていく。②地域コーディネーターを活用して、生徒の地域ボランティアへの参加を促進する等、地域連携を強化する。③地域、学区小学校と協働して、防災・減災教育をさらに進める。
特別支援教育	①特別な配慮が必要な生徒に対する合理的配慮の方法や、授業のユニバーサルデザイン化を引き続き研究していく。②特性理解研修の内容を充実させ、校内支援体制の再整備につなげていく。③特別支援教室の充実をさらに推し進め、教室の運営・個別の学習支援の方法等の情報を全職員で共有するシステムの構築をする。
キャリア教育	①地域コーディネーターを活用し、1年の職業インタビュー、2年の職業体験の幅を広げ、3年で自己能力を生かした進路選択が出来る3年間を通したキャリア教育をおこなう。②キャリア教育を通じ、生きる力を付けさせると同時に、生きることの大切さや、他を思いやる気持ちや認め合う心を育てる。③生きることの大切さを教え、自己肯定感や自己有用感を高めさせる。
いじめへの対応	①迅速な情報の共有、組織的な生徒指導・相談活動の質の向上を図り、いじめの未然防止・早期対応にさらに取り組むと同時に、職員の感度を高める。②授業、学校行事、部活動、地域ボランティア等の機会を活用して、自己肯定感を高めると同時に人権感覚を育み、いじめを生まない学校風土を醸成する。③家庭・地域や関係機関との連携を強化し、先を見据えたいじめ防止対策を行う。
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①経験の浅い職員が主幹教諭・モデルリーダーを指名し、なりたい人物像を意識しながら、通常業務の中での1対1でのOJTを充実させる。②横のつながりのある校務分掌、組織を考え、進捗状況などを相互に確認し業務内容の見直しを図り、業務の優先順位を決める。③職員室内の環境整備を行い、業務の効率化を図り、働き方改革にも関連づけていく。